

3 土橋カフェ

土橋カフェは、認知症の方とその家族が集う場所として全国各地に広がりつつある認知症カフェのひとつです。土橋町内会をはじめ、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、地域包括支援センター、宮前第二地区社会福祉協議会など、地域のさまざまな関係機関や専門家が運営に携わり、その取組は全国的に多くの反響を呼んでいます。

■ 活動を始めたきっかけ ■

「地域包括ケア連絡会議」の中で「認知症についてよくわからない」という声が拳がり、「認知症の理解」を地域の課題として勉強会を重ねてきました。そこで、認知症の方も気軽に集える場を地域で考えていたとき、認知症専門医の高橋正彦先生から、認知症カフェがどこかできないかと提案がありました。福祉活動の土壌が根付いた土橋地区がふさわしいとの助言もあり会議にはかったところ、すぐに話がまとまり、「認知症を地域で支え合おう」という目的のもと、「土橋カフェ」がスタートしました。「おしゃべりサロン」(平成22年～)が第3水曜日に行われているので、「土橋カフェ」は第1水曜日に行くことになりました。

土橋会館(町内会会館)を会場として、土橋町内会、民生委員が主体となって運営しており、専門医、区保健師、ケアマネージャー、家族会、地域包括支援センターもそれぞれの専門性を生かして関わっています。

■ 活動の内容 ■

土橋カフェは、認知症の方やその家族はもちろん、地域の誰もが気軽に立ち寄り談笑できる場となっています。

毎月第1水曜日の午後、土橋会館(町内会会館)は70～90人の参加者で部屋中がいっぱいになっています。喫茶代100円を払えばお代わり自由の飲み物は、ドリップしたコーヒーや抹茶などが、その場で丁寧に作られています。

「カフェ」という呼び名の通り、基本的にはお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただくことが主体となっていますが、合間には、健康や医療、福祉の専門家による講話やシナプソロジーやコアコンディショニング等の身体を動かす運動を行っています。平成27年9月には、開設2周年を記念して、高橋先生と認知症ケアアドバイザーの五島シズ先生により「認知症の今までとこれから」というテーマで対談が行われました。

当日の運営には、ボランティアや地域包括支援センターの職員が約10名入っており、ボランティアのうち2名は認知症の当事者だそうです。

各地での地域活動やサロンなどの集まりには女性が圧倒的に多く見られますが、土橋カフェには相当数の男性が参加しているのが印象的でした。

また、医師や地域包括支援センタースタッフなど認知症についての専門家が常に参加しており、参加者と専門家がリラックスして親しく話ができるのは、カフェの特徴を生かした環境であると言えます。土橋カフェで専門家に相談をしたことにより、家族を認知症外来に受診させ、早期の治療や介護保険制度の利用につながった事例があったそうです。

地域の現状とこれからの展望

土橋カフェを主宰する土橋町内会副会長の老門さんのお話によると、町内会の加入数は約6,000世帯あり、宮前区内でも大規模な町内会のひとつです。このカフェはNHKなどの報道や認知症カフェフォーラムでの報告により、全国的に活動が広く知られるようになりました。しかし、会場やボランティア確保の都合から、現在の盛況ぶりにも関わらず、毎月1回の開催数を増やすことは難しいとのことでした。

今後は、認知症カフェを核とした、認知症に対する「横に広げた」地域支援を目指しているとのことでした。その実践として、平成26年度より、地域住民を対象とした認知症サポーター研修を頻度高く実施するとともに、富士見台小学校における「寺子屋富士見っ子」を利用した認知症キッズサポーター研修を毎年実施するなど、認知症を地域で支え合うベースづくりが進められています。あわせて、「地域包括ケア連絡会議」を核とした、専門職と相談のしやすい環境を整えつつあるとのことでした。

ポイント①

カフェの親しみやすい
スタイルによる
認知症見守り活動

ポイント②

町内会や老人クラブなど
地域の関係機関や専門家が
協力する運営体制

ポイント③

認知症の専門家への
相談のしやすさが
早期の支援に関連



会場のポスターには、盛況な会場の様子がそっくりに描かれています



対談「認知症の今までとこれから」の様子
会場は90名の参加者で満員でした